

内水研通信

第5号 平成17年7月

千葉県水産総合研究センター 内水面水産研究所

〒285-0866 佐倉市臼井台 1390

TEL 043-461-2288 FAX 043-460-1340

利根川ヤマトシジミ資源調査の漁業者説明会を開催！



各漁協事務所での説明風景

日本に生息しているシジミ属はヤマトシジミ、マシジミ、セタシジミの3種で、私たちが一般的にシジミとして食す機会の大半はヤマトシジミであり、シジミ漁獲量の99パーセントを占めています。

ヤマトシジミは汁物にすると特に出汁(だし)や風味が増す等おいしい食べ方の一つで、その秘密は、淡水と海水が混ざり合う汽水域に生息していることで、アミノ酸の一種であるアラニンという旨味成分が非常に多く生成されるためといわれています。

シジミの漁獲量は全国的にも減少傾向にあり、本県でもシジミ資源の現状把握のため平成13年度より主産地である利根川で、「ヤマトシジミ資源調査事業」を行なっています。

5月30～31日には、関係する漁協の漁業者を対象にした当該事業の調査結果(13～16年度分)や、今後の調査計画(17年度)について説明会を実施しました。

説明後の意見交換では、近年増加しているアカエイによるシジミの食害についての調査希望等、シジミ資源復活のために活発な討議がなされました。

ナマズ種苗生産研修会を今年も実施しました！



ナマズへのホルモン処理

県内でのニホンナマズ養殖の普及を目的に発足した千葉県ナマズ養殖協議会(会長 臼井重治、以下、協議会)。協議会会員による種苗生産のための技術習得を目的とした研修会を、今年は6月の一ヶ月間を対象に開催しました。

ナマズ養殖で最も難しい時期が、孵化後から一ヶ月の間で、この間に発生する激しい共食い行動が生残率の極端な低下を招くことから採卵から5gサイズの種苗となるまでの一ヶ月に重点を置いた

養殖技術を確実に習得してもらうためです。

初日となった
6月1日は、午前
中に担当職員を
講師にした学習
会で、ナマズの生
理的特性や養殖
技術等の資料を
教本として学び
ました。



室内での学習会



親魚の選別

実技では親魚の取上げから始まり、親魚の選別方法、排卵誘発のために使用するホルモンの調合、親魚へのホルモン注射等、受講者の覚えてもらう過程は多かったのですが、皆、熱心に取り組みました。

また、6月2日以降の日程、及び内容は下記のとおりでした。

○ナマズ種苗生産の流れ

ミジンコ池の準備（施肥） 3～4週間後にミジンコ発生

[第2回研修会（6/2）](#)

ホルモン注射と採卵 2日後ふ化（水温約 25℃）

[第1・2回研修会（6/1・2）](#)

ふ化後管理（ふ化後2日まで）

[第3回研修会（6/7）](#)

ふ化仔魚の放養（2日以降）

[第3回研修会（6/7）](#)

給餌管理 ミジンコの管理（ふ化後2日～3週間前後）

仔魚の餌付け（ミジンコから配合飼料へ）

[第4・5回研修会（6/14・21）](#)

最重要ポイントです

取り上げ・計数（ふ化後30日前後）

[第6回研修会（6/28）](#)

出荷・7月上旬より会員への稚魚配布（平均13g）を始めています。



袋詰め作業中



出荷前の計量です